

6 ^{ささほこやまにごうふんしゅつどひん} 笹鉾山 2 号墳出土品 ^{いっかつ} 一括 [有形文化財（考古資料）]

（人物埴輪 3 点、馬形埴輪 3 点、蓋形埴輪 1 点、形象埴輪片一括、円筒埴輪 4 点、朝顔形埴輪 2 点、土師器 2 点、須恵器 1 点、笠形木製品 3 点、石見型木製品 1 点、木製品部材 6 点）

[所在地] 田原本町大字阪手 348 番地の 1（田原本町役場分庁舎）

[所有者] 田原本町

[出土地] 田原本町大字八尾 258 番 1 西側水路

[時代] 古墳時代

[概要]

笹鉾山古墳群は、寺川西岸、標高 46m 前後の沖積地に立地する。古墳時代後期の前方後円墳 1 基、円墳 4 基で構成される。2 号墳は直径 24m の円墳で、幅約 3m の周濠の北東は一部が途切れており、陸橋の可能性がある。墳丘は削平されており、盛土は残存していない。周濠の北側及び東側が調査され、埴輪、須恵器、土師器、木製品は南東側の周濠内から一括して出土した。埴輪と須恵器の特徴から、2 号墳は古墳時代後期に築造されたと考えられる。

人物埴輪 人物埴輪は 3 点ある。いずれも左手を挙げ、右手を下げる。3 点ともその姿態から、馬牽きを表したと考えられる。

馬形埴輪 馬形埴輪は 3 点ある。いずれも、f 字形鏡板付轡、面繫、手綱、胸繫、鞍、鞍の敷物、鐙、障泥、尻繫などの馬具を装着した飾り馬である。

これら出土品の時期は、古墳時代後期のものと考えられる。笹鉾山 2 号墳は、規模が小さいものの各種の形象埴輪や木製品が多数出土しており、当該期の古墳に樹立された埴輪と木製品などの様相をよく示した一括資料として価値付けられる。なかでも人物埴輪と馬形埴輪は、周濠内における出土状態から、それぞれ馬牽きと馬を表した組み合わせが明らかとなった点が重要である。馬牽きの髪型や服装と装備、飾り馬の馬具の装着状況など、古墳時代の習俗が忠実に表現されており、きわめて資料価値が高い。



人物埴輪（1）



馬形埴輪（1）